

授業科目(ナンバリング)	器械体操 (CC207)			担当教員	宮良 俊行		
展開方法	実技	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
中学校指導書体育編（文部科学省）に例示されている器械運動の基本的技を習得するとともに各技の系統的発展性を理解し、安全で合理的な練習方法（段階練習、系統練習）および補助法を知る。また、器具の安全な使用方法及び補助具の使用法を知る。							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
専門力	器械運動の専門性や安全面を理解し、グループで実践することができる。まあ、自ら実践して正しい動きを実演することができる。			・受講者の発表・実技		70%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	学生としてふさわしい態度で、意欲的に授業に取り組むことができる。			・受講者の受講態度		30%	
多様性理解力							
出席				受験要件			
合計				100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
各授業における授業態度（評価比率 30%）と演技の発表会の成績（評価比率 70%）をもとに総合的に評価する。演技の発表会に関しては、個別にフィードバックを実施する。							
授業の概要							
<p>グループワークで、課題として示された技を分担して担当し、その技の系統的・段階的・安全な練習方法を調査・理解し、互いに指導し合う。15 時間の学習計画をグループで作成し、実践する。その過程で基本技能を養うとともに補助法・補助具の使用法、器具の安全な使用法を学ぶ。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特になし。</p> <p>参考書：特になし。</p> <p>指定図書：「小学校体育 器械運動」</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が担当する技の指導については教師になったつもりで指導すること。特に安全で段階的・系統的練習方法を事前に予習して指導に当たること。</li> <li>・体調を整えて授業に望むこと。</li> </ul>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	今の力を知る	グルーピング、過去にできていた技の確認。 器具のセッティングの仕方と安全点検	シラバスを読んでくる。
2	集団マット運動	今できる易しい基礎技で仲間と調子を合わせて演技する。	「器械体操」に関する本を読んでくる。
3	集団跳び箱運動	今できる易しい基礎技で仲間と調子を合わせて演技する。	マット（前転、後転）を反復練習してくる。
4	集団鉄棒運動	今できる易しい基礎技で仲間と調子を合わせて演技する。	自分が興味ある種目のルールを調べてくる。
5	マット及び鉄棒運動①	マット（前方接触回転技群、倒立）、鉄棒（上がり技）	マット（前方接触回転技群、倒立）を反復練習してくる。
6	マット及び鉄棒運動②	マット（前方接触回転技群、倒立）、鉄棒（上がり技）	マット（前方接触回転技群、倒立）を反復練習してくる。
7	マット及び鉄棒運動③	マット（後方接触回転技群、倒立回転技群） 鉄棒（回転技）	マット（後方接触回転技群、倒立回転技群）を反復練習してくる。
8	マット及び鉄棒運動④	マット（後方接触回転技群、倒立回転技群） 鉄棒（回転技）	マット（後方接触回転技群、倒立回転技群）を反復練習してくる。
9	マット及び鉄棒運動⑤	マット（はねとび技） 鉄棒（同上）	マット（はねとび技）を反復練習してくる。
10	マット及び鉄棒運動⑥	マット（前方倒立回転とび） 鉄棒（同上）	マット（前方倒立回転とび）を反復練習してくる。
11	跳び箱及び鉄棒運動①	跳び箱（切り返し系群技） 鉄棒（同上）	跳び箱（切り返し系群技）を反復練習してくる。
12	跳び箱及び鉄棒運動②	跳び箱（台上前転。首・頭はねとび） 鉄棒（おり技）	跳び箱（台上前転。首・頭はねとび）を反復練習してくる
13	跳び箱及び鉄棒運動③	跳び箱（前方・側方倒立回転とび） 鉄棒（同上）	跳び箱（前方・側方倒立回転とび）を反復練習してくる。
14	マット、跳び箱、鉄棒	選択技及び基本技の習得	自分が興味ある種目のルールを調べてくる。
15	器械体操のまとめ	器械体操に関する基礎知識、運動現象の理解したことをまとめる。	自分のできた技について説明できるようにする。